

シンポジウム

シリア文化遺産の 保護へ向けて

2014年**6月23**日(月) 13:00～17:45

地下1階セミナー室

入場無料

事前申し込み不要

【主催】 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター

お問い合わせ先

東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 安倍雅史、間倉裕生

Tel: 03-3823-4809

E-mail: abe@tobunken.go.jp, h.kansha@tobunken.go.jp

The National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo National Institutes for Cultural Heritage



シンポジウム シリア文化遺産の保護へ向けて

「アラブの春」に端を発した北アフリカや中近東諸国における民主化運動は、アラブ世界に大きな変化をもたらしました。シリアにおいても2011年4月に大規模な民主化要求運動が発生し、そのうねりはとどまることを知らず、現在では事実上の内戦状態となっています。シリア国内の死者は既に14万人を超え、400万人以上が難民となって国外に逃れている中、対立は激しさを増しており、いまだに出口が見えない状況です。その一方で、国際社会においては内戦終結および平和構築、あるいは復興に向けたさまざまな取り組みが始まっており、我が国としても今後どのような役割を果たしていくかが問われています。

内戦が繰り広げられる中で、文化遺産に対する被害もまた、大きな問題となっています。とくに、風光明媚な古都として知られるシリア第二の都市アレppoでは激しい戦闘が行われ、歴史的なスーク（市場）が炎上し、アレppo城が損壊を受けるなど、世界遺産にも被害が及んでいます。これを受けて、ユネスコ世界遺産委員会は、2013年6月20日、内戦が続いているシリア国内にある6つの世界遺産のすべてを「危機遺産」に登録しました。それ以降も、各地の遺跡では盗掘が横行し、偶像破壊を名目とした意図的な破壊活動も行われるなど、文化遺産の危機は続いています。

このような中、ユネスコは、新たにシリア文化遺産保護に向けた活動を開始しました。今回のシンポジウムでは、2014年5月23日から25日にかけての三日間、ユネスコがパリで主催した“Rallying the International Community to Safeguard Syria's Cultural Heritage, International Expert Meeting”の報告を行うとともに、シリア文化遺産保護に向けた国内、海外の様々な取り組みを報告します。

このような中、ユネスコは、新たにシリア文化遺産保護に向けた活動を開始しました。今回のシンポジウムでは、2014年5月23日から25日にかけての三日間、ユネスコがバリーで主催した“Rallying the International Community to Safeguard Syria's Cultural Heritage, International Expert Meeting”の報告を行うとともに、シリア文化遺産保護に向けた国内、海外の様々な取り組みを報告します。

13:00-13:10	主催者挨拶「本シンポジウムの目的」 山内和也（東京文化財研究所）
13:10-14:20	セッション1「シリアの文化遺産、およびそれに対する国際動向の現状」 ユーセフ・カンジョ（シリア国アレppo博物館館長） 間倉裕生（東京文化財研究所） 山崎やよい（元アレppo博物館客員研究員）
14:20-14:30	休憩
14:30-15:25	セッション2「ユネスコ主催 “Rallying the International Community to Safeguard Syria's Cultural Heritage, International Expert Meeting” の報告」 山内和也（東京文化財研究所） 西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所） 安倍雅史（東京文化財研究所）
15:25-15:45	休憩
15:45-16:35	セッション3「日本国内における取り組み」 西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所） 常木晃（筑波大学） 須藤寛史（岡山市立オリエント美術館）
16:35-16:45	休憩
16:45-17:45	セッション4 パネルディスカッション「シリア文化遺産の保護へ向けて」 司会：山内和也（東京文化財研究所）

